

のうがくかい

「なごやか農楽会」だより 66号

2021.5月(夏)号



2021年度(20期)総会

- ◇ なごやか農楽会からのお知らせ
～ 令和3年度(20期)総会開催 ～
～ 農業ボランティア育成講座説明会開催など ～
- ◇ 援農作業予定 (6～8月)
- ◇ 援農作業実績 (2～4月)
- ◇ 農家さん紹介/あいちの伝統野菜など

なごやか農楽会からのお知らせ

令和3年度(20期) なごやか農楽会総会開催

令和3年度総会が4月18日(日)に農業センター農業指導館講習室で開催されました。

コロナ感染対策等のため、午前(てんぱく、港・中川支部参加)と午後(みどり、もりやま支部参加)に分散して開催しました。午前、午後合わせて80名の会員の出席となりました。午前、午後の総会とも中村農業センター所長様からご挨拶を頂いたのち、立道会長の司会で進行しました。事務局から令和2年度の事業報告、決算・会計監査報告があり、各議案毎の質疑応答を経て承認されました。

令和3年度の役員・評議員の選出(11名)を行い、選出後の事務局より令和3年度の事業計画、会則の見直し、令和3年度の事業予算の提案があり、各議案毎の質疑応答を経て承認されました。

この後、ボランティア保険の説明、会員アンケート票の説明、援農塾活動参加手続きの案内などを行いました。閉会后、所属支部ごとに分かれ、支部総会が開催されました。

なごやか農楽会だよりは、名古屋市農業センターのご協力により発行しております。

なごやか農楽会からのお知らせ

令和3年度役員・評議員

会長	立道 和久	(3期)
副会長	間瀬 和夫	(7期)
事務局長	川合 雅彦	(7期)
てんぱく支部長	杉野 正和	(13期)
みどり支部長	大樹 幹雄	(14期)
もりやま支部長	佐藤 誠治	(16期)
港・中川支部長	山内 伸明	(13期)
畑の管理活動リーダー	橋本 朝一	(2期)
副事務局長	水野 正勝	(13期)
会計	中地陽一郎	(16期)
会計監査	谷本美枝子	(8期)

農業ボランティア育成講座説明会開催

4月3日(土) 令和3年度農業ボランティア育成講座説明会が農業センター農業指導館講習室にて開催されました。
コロナ感染拡大対策のため、午後1時半及び2時半の2回開催(各回定員40名、合計80名)。
なごやか農楽会から事務局長が出席し、農楽会の活動について説明しました。
講座説明会参加希望者が、定員(80名)を上回る100名超となったため、20名強の方が説明会に参加できない状況となりました。
市民の皆さんの関心の高い育成講座になっています。

会費の振込につきまして(重要)

会費(1,000円)の振込み(ゆうちょ銀行(振替))をお願いいたします。ゆうちょダイレクト(インターネットバンキング)・ゆうちょ銀行口座からのATMでの振替が振込費用が安くできます。

ゆうちょ銀行口座から振替も利用できます。なるべく早めをお願いいたします。

なお、ゆうちょ銀行の自分の口座以外からの振替の場合振込人名かわかるようにご依頼人名欄になごやか農楽会会員のお名前を忘れずにご記入下さい。

振込(振替)先等は次のとおりです。

振込先: ゆうちょ銀行(記号12100)記号・番号の場合

口座名: なごやか農楽会

種類: 普通預金口座(番号68446931)

(他銀行からは、店番218—普通預金6844693)

ご自分のお名前も忘れずに

会員アンケート提出のお願い

令和3年度総会開催時又は郵送・メールにて「なごやか農楽会会員アンケート票」を配布・送付いたしました。

「なごやか農楽会会員アンケート票」はこれからの農楽会の活動をみんなで考えるために活用させて頂くとともに、令和3年度に作成するなごやか農楽会20周年史に掲載する予定であります。

アンケートについてご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「なごやか農楽会会員アンケート票」に必要事項をご記入頂き、添付いたしました返信用(受取人払)封筒に同封し、お近くの郵便ポストに投函し、ご返信願います。

返信期日は6月30日(水)です

評議会報告

報告・審議・検討事項

2月度会議(2月6日開催)

(1) 2月6日、育成講座修了式。緊急事態宣言発令中のため、交流会は中止。修了式のみ行う。

(2) なごやか農楽会援農塾(仮称)の開設についての検討を行い、援農塾を開設し、活動を暫く続けるが、会則の変更は、今回見送ることとした。援農塾の開設により自習畑の削除(会則の変更)は来年度の総会議案とする。

3月度会議(3月13日開催)

(1) HPプロジェクト 2月20日にプロジェクト第2回目の打合せを行った。他のHPを参考し農楽会HPを見直すアイデアを検討している。年度内に農楽会HPの仕様を作成する予定。

(2) 事業計画 20期事業計画について審議。

19期同様、20周年記念行事に注力する方針について承認。畑の管理活動を推進する援農塾の発足について検討し、畑の周辺の方にご迷惑をおかけする等の問題が生じないよう配慮しつつありあえずやってみることとする。

4月度会議(4月3日開催)

(1) 令和2年度の活動実績について報告

てんぱく支部 みかんの収穫 依頼増加 みどり支部 依頼の多い農家の高齢化による援農依頼減少 もりやま支部 コロナ感染防止対策による援農参加機会減少 港・中川支部 援農先農家増等に伴う援農依頼増加

(2) 令和2年度決算報告 会計担当から決算報告あり。会計監査より本日監査を行い、間違いのない旨の報告あり。

(3) 令和3年度事業予算(案)等について

令和3年度事業予算(案)、20周年特別会計(案)について説明あり。支部・支部局配分について、19期予算案づくり同様予算収入から事務局活動費を控除し4支部合計の配分額を算出する方法とした。事業予算(案)の次期繰越金の一部を農楽会紹介パネル及びスタッフジャンパーの購入に充てることについて承認となった。

(4) 第20期なごやか農楽会総会資料について最終確認を行った。

(5) 3月31日ボランティア保険(190名分)手続き終了。

援農作業予定 (6～8月)

てんぱく支部

支部会員へのお願い

援農作業風景の写真を募集しています。
農家さんにご迷惑をおかけしないよう事前に
了解を頂いた上、休憩時間の前後の時間に
撮って下さい。支部長と相談の上。

6月
タマネギの清掃選別。
ブドウの粒抜き。

7月
カボチャの収穫と清掃。
「市民ふれあい農園」の手伝い
トウモロコシ・枝豆、カボチャ収穫

8月
カボチャの後始末
ニンジンの種まき

みどり支部

支部会員へのお願い

援農作業風景の写真を募集しています。
農家さんにご迷惑をおかけしないよう事前に
了解を頂いた上、休憩時間の前後の時間に
撮って下さい。支部長と相談の上。

6月
トマトの収穫 胡瓜の収穫、ハウス内の片づけ
ブドウの摘粒、袋掛け
さつま芋定植 玉ねぎ収穫

7月 援農休み

8月 援農休み

援農作業予定 (6～8月)

もりやま支部



ブドウの房落とし(4月)作業

6月
トマト・玉ねぎ等収穫、畑整理
ぶどう房作り・つる切り
ブルーベリー剪定、梅収穫

7月
草とり、畑整理
ぶどう袋かけ、枝切り
ブルーベリー収穫

8月
畑整理、玉ねぎ皮むき
ぶどう蔓切り、収穫
ブルーベリー収穫

港・中川支部



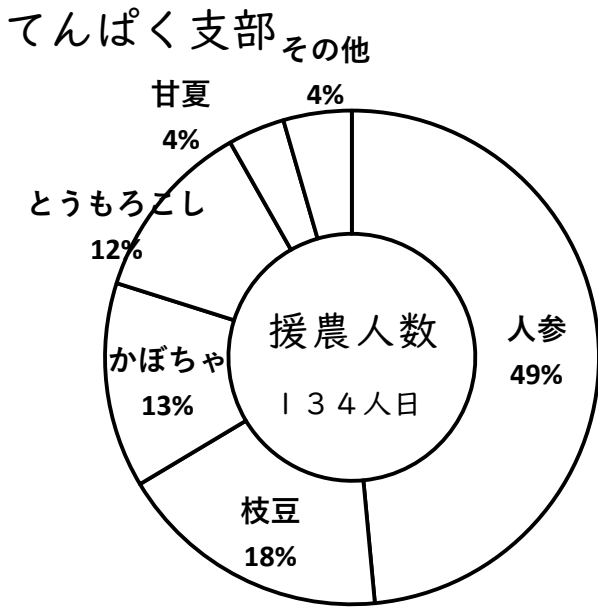
出荷用の箱作り

6月
箱作り、ハウス内作業
玉ねぎ、ナス、ピーマン収穫
枝豆の袋詰め、ミツバ出荷準備など

7月
箱作り、糸貫作業、草取り
スイカ・カボチャ・ナスの収穫、
野菜販売、とうもろこし・枝豆試食準備、
ジャガイモ掘り、ハウス内作業
ミツバ出荷作業

8月
畝づくり、人参種まき、草取り
ハウス内作業、ミツバ出荷作業

援農作業実績 (2～4月)



1人日=1人1日3時間の援農作業

三か月間（2月～4月）の援農実績は、134人日。
三か月間の援農先は、4農家。
援農作業は、人参の収穫（注）、選別、かぼちゃ、とうもろこし、枝豆植付け、甘夏の収穫等です。

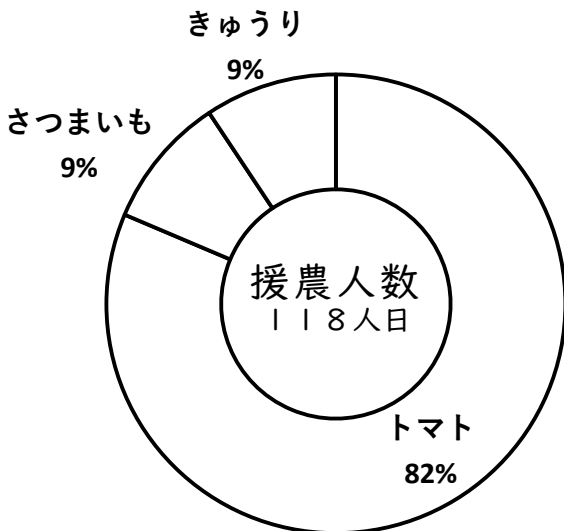
昨年度（2月～4月）の援農実績 140人日

（参考）年度実績比較

年度援農実績（20年4月～21年3月）876人日
年度援農実績（19年4月～20年3月）594人日

（注）人参の援農作業は、収穫、選別（1、2月）と蒔き（8月）があります。
蒔きは経験と技術が必要です。
農家さんに聞いてみましょう。
援農作業の邪魔にならないように気をつけて。

みどり支部



1人日=1人1日2時間の援農作業

三か月間（2月～4月）の援農実績は、118人日。
三か月間の援農先農家は、2農家。
援農作業は、ミニトマト・中玉とまと収穫、トマトトーン散布、脇芽取り・誘引、下葉とり等のトマトの作業の他、きゅうりの定植、さつまいも畑の耕耘、畝づくり、肥料散布などです。

昨年度（2月～4月）の援農実績 131人日

（参考）年度実績比較

年度援農実績（20年4月～21年3月）411人日
年度援農実績（19年4月～20年3月）495人日

援農作業実績 (2～4月)

もりやま支部

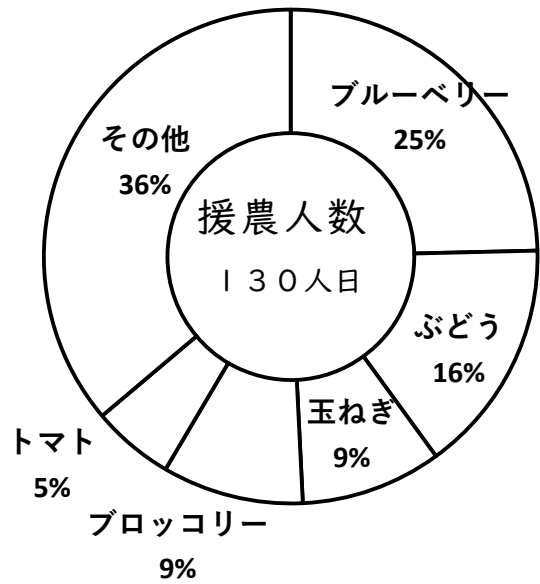
三か月間（2月～4月）の援農実績は、130人日。
 三か月間の援農先農家は、3農家。
 援農作業は、ブルーベリーの剪定、鉢植替え（注）
 ぶどうの皮むき、蔓切り、玉葱の植え、マルチ張り、
 ブロッコリーの片付けなどです。

昨年度（2月～4月）の援農実績 74人日

（参考）年度実績比較

年度援農実績（20年4月～21年3月）377人日
 年度援農実績（19年4月～20年3月）435人日

（注）ブルーベリーの援農作業は、剪定、ネット
 張り、収穫、堆肥・もみがら運び、蔓切り等、年
 間を通して作業があります。



1人日=1人1日2時間の援農作業

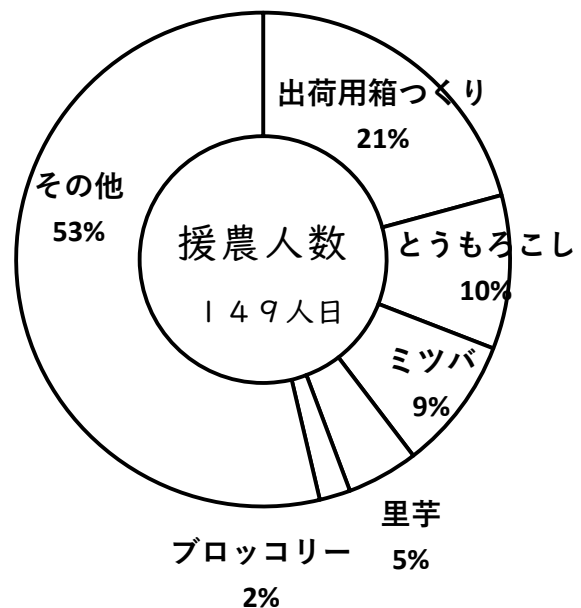
港・中川支部

三か月間（2月～4月）の援農実績は、149人日。
 三か月間の援農先農家は、7農家。
 援農作業はトマト出荷用の箱づくり、とうもろこしの播種、苗づくり、ミツバの苗出荷作業、里芋の収穫、土おとしなどです。

昨年度（2月～4月）の援農実績 150人日

（参考）年度実績比較

年度援農実績（20年4月～21年3月）696人日
 年度援農実績（19年4月～20年3月）558人日



1人日=1人1日2又は3時間の援農作業

農家さん紹介

(成田果樹園：みどり支部)



好きな言葉は、「プロジェクト」
豊富な経験と熱い情熱をお持ちの
成田さんらしい言葉です。

援農参加者について成田さんの言葉
「定年退職した人が多いけれど、
とにかく皆さんの元気がすごい。元
気がブドウやモモの木に移るのがわ
かるんです。
元気のもとをみなさんにもらって、
元気な果物を食べた人が、
また元気になるんです。」

みどり支部の成田果樹園さんを訪問しました。

302号線緑消防署東の信号を鴻仏目、尾崎山方向へ南進。尾崎山交差点の次の十字路の東側3件目、ここが成田果樹園さん。成田さんで三代目。

江戸時代、水害を逃れるため、一族は笠寺から引っ越したとのこと。

当時から果樹栽培を手掛けていらっしゃると思っていたが、果樹は戦後だそうです。果樹の無い戦前の野菜づくりは大変なご苦労があったと思います。

本格的に農業に携わられたのは退職されてからです。

退職前は、愛知県の職員として農業改良普及員、農業専門技術員を歴任され、農業総合試験場果樹研究所にも在職されました。農楽会だより第61号(2020.2月号)あいちの伝統野菜でご紹介した菅原眞治先生と机を並べていたとのこと。安城はイチジクの産地です。成田さんから水田からの転作と教えて頂きました。愛知県H.Pには昭和40年代にイチジク栽培が本格化し、日本一のイチジク産地(栽培面積：全国1位、収穫量：全国2位、産出額：全国1位)であると紹介されています。転作ですから早く成果を出す必要もあり、排水と灌水を行う技術や畝を立てる方法も考えて、2年目から収穫できるようにしたとのことです。一文字整枝やX型整枝の話し、年4回の研修会や呼ばれたら直ぐにかけつける等で良い人間関係の構築、優れた組織づくりの実践等イチジク栽培の改良・拡大と若き成田さんの成長がきっと重なるでしょう。話しはつきません。

研究熱心な姿勢、果樹栽培への情熱を強く感じます。こうしたらどうだろうという意見を一人一人が言うようにする。その意見を否定せず、認めることで更に意見を引き出すことが大事との話しが印象に残りました。

農楽会とのお付き合いは、退職後に農業センターからボランティア育成講座の講師の依頼があった時、直接自分の畑に援農に来てもらい、その場で教える方がよいとの思いで援農先農家の登録をしたとのこと。主な援農作業は、5・6月のブドウ(花穂切り、摘粒、袋掛け)・桃(袋掛け)・ミカン(摘蕾)など、12月のブドウ・桃・カキ(整枝せん定)等です。援農ボランティアについてプロフィール欄に記載したように思っ頂き、本当に有難いです。

今回もまた農業って素晴らしいと感じさせて頂ける農家さんにお会いすることができ、素晴らしい話をきかせて頂いたことに感謝します。

農家さんとの信頼関係を更に深めていきたい、そう思います。

はじめよう！ 家庭菜園(*1)



今月号は間引きについてです。間引きとは苗が密集した状態から少数の苗を残しその他の苗を抜く作業のこと。

せっかく生えてきた芽を摘むのは気がひけますが野菜をきちんと生長させるためには必要な作業です。間引きはなぜ必要なのか時期、方法についても説明していきます。

1. 間引きの目的って何だろう

種をまきたくさん生えた新芽の中から生長が早く、太いものを選びそれ以外の若い芽を引く抜く作業を間引きといいます。間引きには新芽同士の根の衝突や密集を防ぎ病気や害虫の被害を減らす目的があります。そのため、育てたい株より種を多くまいた方が良いでしょう。

2. 間引き株を選ぶポイントって？

- ・他よりも遅く芽が出たもの
- ・他の株に比べて小さいもの
- ・茎が細く弱弱しいもの
- ・葉の色が薄く変色しているもの
- ・茎がひょろりとしているもの
- ・葉の形が悪く、欠けているもの
- ・他の株より極端に大きいもの

3. 間引きをしないとどうなるの

発芽後全ての種を育て続けていると株同士の間隔が狭くなり日当たりが悪くなったり肥料が行き渡らなくなったりします。そのため風通しが悪くなり病気や害虫の被害にも遭いやすくなります。植物の種類によっては育っていく過程で強い株だけが生き残る種類もありますが家庭菜園ではその性質を持つものはほとんどないため間引きが必要となってきます。

4. 間引きの時期は

①発芽直後

新芽の葉が重なり合ってきたら間引きのタイミング。株同士の間隔を2~5cm空けて株を抜いていきましょう

②本葉が1~2枚になったとき

それぞれの株の葉が触れないように再び間引きします。生育の悪いものを選んで手で根ごと抜きましょう。

③本葉が3~4枚になって株が混みあってきたとき

生長の遅いものや病気・害虫の被害に遭ったものを間引きします。

5. どうやって間引くの

・ピンセットなどで苗を引き抜く方法

周囲の株に触れないよう慎重に株元をつかんで引き抜きましょう

・ハサミで切り取る方法先端がシャープなハサミで株元からカットして間引く方法がおすすめです。

(*1) はじめよう家庭菜園は、なごや農業協同組合様が発行されるCITYなごやに掲載されています。なごや農業協同組合様のご承諾を得て、掲載しています。

あいちの伝統野菜

今月号は南瓜（カボチャ）です。

南瓜（カボチャ）は植物学的には三つの種が含まれています。

ニホンカボチャ、ペポカボチャ、西洋カボチャです。これらは相互に交配しても種子ができにくいですが野菜としての性質、栽培法、利用法は似ているため以前から一つの種類のように扱われています。

ニホンカボチャはメキシコ南部から中央アメリカで栽培化されました。

紀元前5千年のメキシコの遺跡から種子が発見されています。ヨーロッパ・中国に伝わったのは16世紀、日本への渡来も天文10年（1541年）です。

ポルトガル船が豊後（大分県）に漂着し大友宗麟の許可を得て貿易を始めました。この際、カボチャを献じたのがわが国のカボチャの最初と言われています。このカボチャがカンボジア国で産したものであったことからカボチャと呼ばれました。その後、豊後の農家で栽培され唐人やオランダ人に販売するようになり、栄養価が高く貯蔵しやすく栽培がしやすいことから短期間に大衆的な野菜になりました。江戸時代に全国各地に伝わりそれぞれの地で栽培され、多くの在来品種（注）が生まれましたが、戦後ほとんどの品種が姿を消し黒皮南瓜の仲間が早出し用として都市近郊や暖地で栽培されている程度になってしまいました。

ペポカボチャはメキシコの遺跡（紀元前7～5千年）から出土する等、北アメリカで古くから栽培されていたものとみられます。

日本への渡来年代は明らかでないですが、明治初年に8種類が導入されています。金糸系瓜（ソウメンカボチャ）と呼ばれる果肉が紐状になるものが栽培され、近年は若い果実を油いためなどにして食べます。

ハロウィンのおばけカボチャはこの品種です。

西洋（クリ）カボチャは南アメリカのパルー、ボリビア等の西部高原地帯の原産です。ヨーロッパに伝わったのはアメリカ大陸発見以後のことです。

日本へは文久3年（1863年）アメリカから入り、明治初年にハッピーード等6品種が導入され北海道を中心に冷涼地で栽培されました。

ハッピーードは斧でなければ割れないほど堅く大きいので俗にマサカリ南瓜と呼ばれました。このハッピーードとデリシャスなどの自然交雑から生まれた栗南瓜が味も良く、大きさ、形とも手ごろで、でんぷんやカロチンの含量が高いため定着し、この種の代表的な和名がクリカボチャになりました。

現在わが国の主要品種はこのクリカボチャです。暖地でも順調に生育する品種が育成され沖縄県でも主要品種になっています。

愛知縮緬（あいちちりめん）かぼちゃが愛知の伝統野菜に指定されています。

参考文献

日本のふるさと野菜（一般社団法人日本種苗協会発行）

日本の野菜文化史事典（青葉高著 八坂書房2013）

あいち在来種保存会

愛知県HP愛・地産・アラカルト

（農業水産局農政部園芸農産課）

愛知縮緬かぼちゃ



次号はメロンを紹介します

（注）

代表的な品種のひとつに居留木橋縮緬南瓜があります。

江戸時代の始めに沢庵和尚が上方から種を取り寄せ、旧荏原郡大崎村（現在の品川区大崎）の名主・松原庄左衛門に栽培させたのが始まりという伝承があります。

海岸に近く気候温暖で、適地であったため、甘味のある良質のカボチャが早い時期からとれたことから有名になり、地名は居木橋ですが、居留木橋カボチャと呼ばれて親しまれました。

果実が扁球形で15内外の縦溝がある。果面には瘤状の小隆起があり明治の中頃まで、特産品として長く名声を博し、後世の新種改良の親となりました

果実は大きく扁平で、着果数は少ない。果皮に特有のひだが多くあり、硬い。果肉は果皮近くが緑色で、中心は濃黄色です。ニホンカボチャの代表的品種です

写真：あいち在来種保存会提供

編集後記

5月12日（水）より愛知県で3度目の緊急事態宣言が出され、5月20日現在も600人を超える感染者が続いています。援農活動参加者及び農家の方へ、援農依頼時等に適切な対応を取って頂くように、お願いします。①検温を行い、発熱や症状がある場合は、援農に参加/依頼しない。②家族等に感染の疑いがある場合（濃厚接触者を含む）も、援農に参加/依頼しない。③援農に参加する場合は、マスクを必ず着用する。④密閉・密集・密接のそれぞれが発生しないように互いに注意する。制約はありますが援農活動に取り組んでいきましょう。

発行

なごやか農楽会事務局（水野・川合） 令和3年5月20日発行

なごやか農楽会は、名古屋市内の農家のお手伝いを主な活動とする農業ボランティアグループ。

会員は、全て農業ボランティア育成講座修了生です。